



平成30年度

「浦安の教育」



浦安市教育大綱

目標1 「未来に向かって夢を持ち、豊かに生きる浦安っ子」を育てます

目標2 「自ら学び ともに高め合い 地域に生きる 生涯学習」の実現を推進します

就学前から義務教育9年間をつなぐ 浦安市 小中連携・一貫教育

● 交流活動の充実

中学校区の特色を生かした園児、児童、生徒の交流活動を通して、思いやりの心や自尊感情を高めるとともに、進学への不安を解消します。

● 就学前から9年間を見通したカリキュラム

就学前から小学校につなぐ「アプローチカリキュラム」、小学校入学時からの「スタートカリキュラム」、小・中学校の学びの系統性を示した「カリキュラムの指針」による学びの連続性を重視した学習により学力の向上を図ります。



入船中生徒による小学校での読み聞かせ

就学前保育・教育の充実

今年度から全面実施となる新幼稚園教育要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が10の項目で示されました。遊びや生活を通じた豊かな体験の中で、様々な気付きや発見の喜びを感じ、それを言葉によって表現したり伝え合ったりすることを通して、学校教育につながる「資質・能力」を育成していきます。

浦安市では、平成29年2月に浦安市就学前「保育・教育」指針の改訂を行いました。幼児期が人格形成の土台をつくる大切な時期であることから、より質の高い



正月遊び(かるたとり) 堀江認定こども園 年長児



保育・教育内容の充実を図ることとしました。

これらをもとに、各園では就学前の子ども達の健やかな成長のために、特色ある保育・教育活動を進めています。

英語教育の充実

● 新学習指導要領に対応した小学校外国語活動を開始

主な学習活動と年間授業時間数

1・2年生 年間14時間

あいさつや身の回りの物の名前について、担任の先生やALT、友だちとのコミュニケーションを通して、楽しみながら学習を進めます。

※1・2年生の外国語活動は文部科学省から教育課程特別校の指定を受け、市独自のプログラムに基づいた外国語活動を実施します

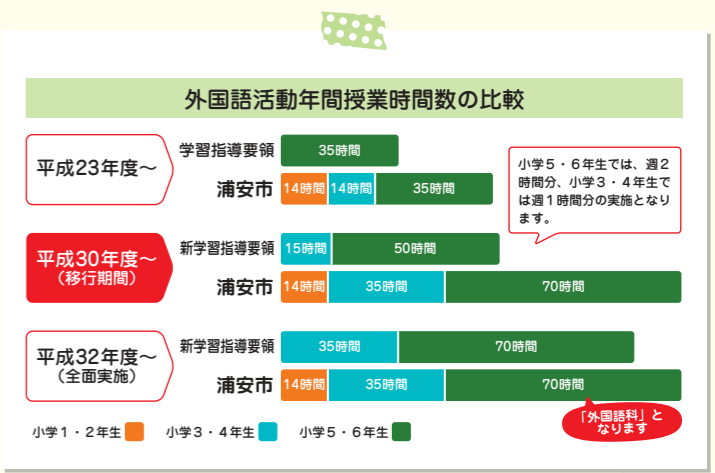
3・4年生 年間35時間(週1時間分)

身近なできごとや身の回りのものについて、質問したり答えたりして進んで伝え合う学習をします。

5・6年生 年間70時間(週2時間分)

自分の考えや気持ちを伝え合う学習をします。また、英語を書く学習も行います。

※3～6年生は、文部科学省作成の教材を使用して、学習をします



● 市内全小中学校へALTの配置

授業時間中や休み時間など、日常からALTとコミュニケーションをとり、一緒に活動することを通して、国際理解・英語教育の充実を図ります。

理科教育の充実



▶ 理科教育推進教員の全校配置

今年度から市内の全小学校へ市独自の理科教育推進教員を配置し、観察・実験を積極的に実施するなど、わかる授業を展開します。担任と共に体験的な学習を行うことで、子どもたちの理科に対する興味関心を高め、「理科が楽しい」という子どもを育てていきます。

道徳教育の充実

▶ 「特別の教科 道徳」小学校全面実施

今年度から小学校の道徳が教科になります。新しく配付される教科書を主な教材として使用し、友達との対話を通して様々な考え方や感じ方に触れたり、深く考えたりすることを重視した「考え、議論する道徳」を実施していきます。なお、中学校についても今年度は教科化への移行期間として道徳の時間の充実を図り、平成31年度より「特別の教科 道徳」となります。



いじめのない学校づくり

▶ 浦安市いじめ防止基本方針を改定

これまであった「浦安市いじめ防止基本方針」に、いじめと判断する際の留意点や、いじめの解消についての定義等を新たに加えました。これにより、すべての子どもたちが安心して学ぶことのできる学校づくりを一層推進します。

▶ メールによるいじめ相談を開始

いじめに関わる悩みや不安などについて、電話で相談に応じる従来の「いじめ110番」に加えて、日常的に利用しやすいメールによるいじめ相談を平成30年度中に新たに実施します。

※メール相談に係る手順、留意点等の詳細については、別途リーフレットまたは市ホームページにより、今後ご案内します

地域で子どもが育つ仕組みづくり



▶全小中学校で学校支援コーディネーターが活躍

学校と地域がより強くつながるために、どの学校にも学校支援コーディネーターがいます。学校支援コーディネーターは、学校の教育活動を支援するために、ボランティアを探したり、連絡調整をしたりしています。学校支援コーディネーターの活動により、各学校における職場体験や昔遊び体験などの学習が充実するだけでなく、地域文化祭や地域美化活動などをとおして、地域と学校のつながりもより深まっています。



中学校の職業体験学習(放送番組制作会社)



ボランティアによる花壇整備

▶未来塾で中学生の学習をサポート

学習習慣の定着や学力の向上を図るため、市内の全中学校の生徒を対象に青少年自立支援未来塾を実施します。公民館を会場に、教員OBや大学生など地域の力による学習支援を行います。



未来塾授業風景

特別支援教育の充実



▶一人一人が充実した学校生活を送るために

通級指導教室では、通常の学級に在籍し、特別な教育的支援が必要である子どもに対して、一人一人の教育的ニーズに合わせたプログラムを組み、個別または小集団での指導を行います。市内には学習や行動面で支援を行う小学生を対象とした「通級ひがし」「通級あけなん」「通級とみ



通級明海

おか」と、中学生を対象とした「通級明海」があります。中学校では、「通級明海(明海中)」を拠点校として、巡回指導も行っています。学校生活において、対人関係、行動面、学習面等に困難のある子どもたちが、人と上手くかわる方法を学んだり、自分に合った学習方法を見つけたりしながら、在籍学級・学校で自信をもって充実した生活ができるよう指導・支援を行っています。

また、浦安小学校と美浜北小学校にある「ことばときこえの教室」では、話すこと・聞くことに対する支援を行っています。

一人一人に応じた支援の充実



▶市内2つ目となる適応指導教室を開設

適応指導教室は不登校又は不登校傾向の状況にある児童生徒に対し学習指導・生活指導・集団適応指導等を実施し、学校への復帰及び社会的自立に向けた支援を行っています。近年の利用者数の増加を踏まえ、平成30年6月にまちづくり活動プラザ内(旧入船北小学校)に市内2つ目となる適応指導教室を開設し、一人一人に応じた支援の充実を図ります。

放課後の居場所づくり



▶放課後異年齢児交流促進事業を通年全校実施

平成29年度より、市内全小学校で放課後異年齢児交流促進事業の通年実施を開始しました。子どもたちの放課後の居場所として、各小学校でスタッフによる見守りを行っています。

また、浦安駅前にある放課後児童交流センターでも事業を実施しています。



土曜学習 理科実験

子どもの読書活動を通じた家庭教育の充実に向けて

浦安市の図書館は、中央図書館を核として市内公民館に7分館があり、小さなお子さんにも、身近な場所で本をご利用いただけるようにしています。「えほんのじかん」として、中央図書館では火曜日から土曜日、分館では毎週木曜日の午後3時半から司書が絵本のよみかきかせを行っています。各館のカウンターでは、司書が子どもの本についての相談にも応じています。



青少年文化・芸術支援事業うらやす管弦楽フェスティバル

うらやす管弦楽フェスティバルは、小学3年生から高校生までを対象として希望者を募り、文化会館において弦楽器体験教室と発表会を行う事業で、今年で4回目を迎えます。

昨年度は100名近い市内在住、在学の子どもたちが応募し、参加者たちの真剣に取り組む姿勢がみられました。また、音楽を通じて仲間の輪も広がっています。今年も夏休みに実施予定ですので、ぜひ参加して下さい。



専門家に聞く＝教育コラム

グローバルな教育から考える 2020年に向けて、今、求められる子どもの学び

■豊かな表現力を生む語学力

現代はモノ、ヒト、カネ、情報などが国境を越えて頻繁に流通し、地球規模(グローバル)で思考し、行動する資質・能力が期待されています。21世紀社会でたくましく、かつ心豊かに生き抜くためには新しい学びや行動が求められています。

その第一は語学能力や表現力です。文化の違いを踏まえた人間関係形成能力の涵養が重要です。一例を示しましょう。たとえば、日本語はしばしば主語をあいまいにしたまま表現し、相手の状況を優先するマナーを大切にします。ドアの前に外国人と立った時、私たちは「お先にどうぞ」といいます。それに対して、英語では「After you!」と表現することを教えられました。日本語は「あなたがお先にどうぞ」という意味ですし、英語では「私

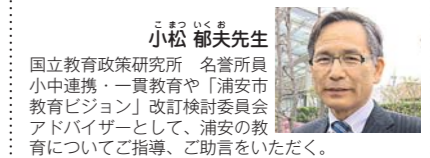
はあなたの後に」という表現です。グローバル化した社会で生き抜くには、まずは自分の考えを明確にすることが重要なように思います。

■他文化から学ぶ

第二は、言語や風習、文化の違いからトラブルにならないよう、本務と余暇のワーク・ライフ・バランスを重視し、一面的な生き方にならないよう、メリハリのある行動や時間の使い方ができるようになることが大切です。

日本の学校では、宿題はもっぱら学校での学習の復習を意味するのに対して、英語のHomeworkは、各家庭での自由で独自の学習を意味することが多いようです。

浦安市には代表的なアメリカ発祥の娯楽施設があります。一所懸命に学習



小松 都夫先生
国立教育政策研究所 名誉所員
小中連携・一貫教育や「浦安市教育ビジョン」改訂検討委員会アドバイザーとして、浦安の教育についてご指導、ご助言をいただく。

や仕事をした後は、思う存分自分を開放して楽しめる文化が身近にあります。グローバルな社会では、時間を有効に使い、多様で多面的な生き方ができる人間であって欲しいと思います。

■Give and Takeの精神

そして第三は、相手の良さを見つけ、積極的にそれらを吸収しつつ、さらに豊かにしてお返しをする持続的な双方向の人間関係を創造して欲しいものです。